

令和5年度 福祉保健生活環境委員会 県内所管事務調査の概要

令和5年6月7日（水）

◆調査箇所：大分県立病院（大分市豊饒）

【概要】

県立病院から、職員の配置状況、施設の概要、医療提供体制及び人材育成、第五期中期事業計画等について説明を受けるとともに、浸水被害の備えとして非常用自家発電設備等の高架化を図った浸水対策設備棟の視察調査を行った。



<主な質疑等>

- ・救急医療現場での働き方改革について
- ・歯科医師の配置状況について
- ・医師の確保と育成について

◆調査箇所：特別養護老人ホーム四季の郷（臼杵市江無田）

【概要】

四季の郷は平成11年に開設し、日常生活における介護や健康管理などを通じて、利用者の自立した生活をサポートしている。また、抱え上げない・持ち上げない・引きずらないノーリフティングケアに取り組んでおり、介護を受ける利用者の身体への負担軽減と介護を行う介護士の腰痛予防に、先端機器を積極的に導入している。

今回の調査では、施設の概要について説明を受けるとともに、施設での先端機器の活用状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・介護現場で必要な行政支援について
- ・機器の導入経費について

◆調査箇所：障がい者複合施設あーるず（佐伯市長良）

【概要】

障がい者複合施設あーるずは、1階に生活介護事業所、2階にショートステイにも対応したグループホーム、3階に介護付有料老人ホームを設置し、親亡き後の対応を始めとした、ライフステージに応じたサポートシステムを構築している。

今回の調査では、開設までの経緯やコロナ禍での施設運営の苦労及び課題等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・地域住民との関わりについて
- ・防災訓練の実施について
- ・利用者の年齢層について

◆調査箇所：南部振興局、南部保健所

【概要】

南部振興局、南部保健所から組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、交通安全、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークを活用した観光振興の取組及び管内における新型コロナウイルス感染症の状況等）の概要等について調査を行った。

<主な質疑等>

- ・コロナ禍における保健所と医療機関との連携について
- ・鳥インフルエンザ対応者の動員範囲について
- ・避難訓練の頻度について



令和5年6月8日（木）

◆調査箇所：豊肥振興局、豊肥保健所

【概要】

豊肥振興局、豊肥保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、交通安全等の取組の概要のほか、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク、おおいた豊後大野ジオパークを活用した誘客促進等の取組及び管内における新型コロナウイルス感染症の状況等）の概要等について調査を行った。

<主な質疑等>

- ・豊肥保健所単体での所長設置のメリットについて
- ・保健所における放射線技師の役割について



◆調査箇所：大分県光明寮（豊後大野市三重町）

【概要】

大分県光明寮は、県内に2か所ある生活保護法に基づく入所施設のうちのひとつ。身体、精神、知的の障害の種類を問わず、アルコール依存症や在宅生活困難者等様々な事情で支援を必要としている人が入所しており、食事や入浴、クラブ活動などの生活支援を行うとともに、退寮後のサポートとして、寮内で葬儀や納骨なども実施している。

今回の調査では、施設の概要や入所者の状況について調査を行った。

<主な質疑等>

- ・入所希望者の待機状況について
- ・葬儀費用について



◆調査箇所：豊後大野市隣保館（豊後大野市大野町）

【概要】

豊後大野市隣保館は、地域住民の福祉向上や人権啓発の住民交流の拠点施設として、生活上の相談事業や部落差別問題をはじめとする人権課題解決のための講座や啓発新聞発行の事業などのほか、隣保館施設の管理や一般への貸館業務を行っている。また、現在の建物は県の補助事業などを活用して、令和5年4月に建てられた。

今回の調査では、施設の概要や本年度の隣保館事業について調査した。

<主な質疑等>

- ・建て替え前の建物の使用用途について
- ・地域における部落差別の状況について



令和5年6月13日（火）

◆調査箇所：金池校区児童育成クラブ／大分市立かないけ認定こども園（大分市金池町）

【概要】

かないけ認定こども園及び児童育成クラブが併設されている現在の建物は、金池小学校の校舎の建て替えに伴い、小学校も含めた複合施設として、大分市では初となるPFI方式により施設整備され、認定こども園、児童育成クラブ共に今年1月から開園している。認定こども園の定員は0歳から5歳までで126名、児童育成クラブの定員は200名となっている。

今回の調査では、施設整備の状況や新校舎の利用状況について調査した。



<主な質疑等>

- ・PFI方式の採用の経緯について
- ・認定こども園の待機児童の状況について
- ・児童育成クラブでの長期休業日に限定した受入れの可否について

◆調査箇所：うさ児童館（宇佐市四日市）

【概要】

うさ児童館は、0歳から18歳まで利用できる児童厚生施設で、平成27年3月に開館以来、利用者数は年々増加しており、平均年間利用者数は約2万5千人となっている。児童館事業、利用者支援事業、ファミリーサポート事業の三つの事業を行っており、令和3年からはパパの料理教室など男性の子育てを応援する取組を積極的に行っている。現在では、父親支援の取組の参加者を中心として、うさ児童館を活動場所とした独自のクラブも立ち上がっており、その活動の幅は拡大している。

今回の調査では、当館の父親支援の取組について調査した。

<主な質疑等>

- ・パパクラブの活動費用について
- ・児童館を利用する年齢層について



◆調査箇所：北部振興局、中津児童相談所、北部保健所、豊後高田保健部

【概要】

北部振興局、中津児童相談所、北部保健所及び北部保健所豊後高田保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、交通安全、児童虐待対応における迅速・的確な対応、重大事件への対応、家族支援の強化、令和5年度北部保健所行動計画、新型コロナウイルスの感染状況等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・児童相談所業務における北部エリアの地域間連携について
- ・保健所業務のデジタル化による業務改善について
- ・子ども支援の地域の体制づくりについて

令和5年6月14日（水）

◆調査箇所：西部振興局、西部保健所

【概要】

西部振興局及び西部保健所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、地域活力づくり総合補助金の取組等、令和5年度西部保健所行動計画、新型コロナウイルスの感染状況、生活困窮者自立支援事業の状況等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・九重町の出生率が高い理由について
- ・医師、看護師の過不足の状況について
- ・コロナ禍での苦勞について

◆調査箇所：児童家庭支援センター陽（日田市中城町）

【概要】

児童家庭支援センター陽（ひなた）は、令和4年3月に開設した県内に5か所ある児童家庭支援センターの一つ。児童相談所や市町村その他の関係機関と連携しつつ、地域に密着したよりきめ細かな子育ての相談支援を行っている。昨年度は年間で延べ1,655件の相談があり、4名の職員で対応している。また、市町村からの委託事業として、児童を一時的に預かるショートステイ事業も実施している。

今回の調査では、施設の概要や運営面での課題について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・相談事業のマンパワーについて
- ・運営にあたっての課題について
- ・関係機関との連携について

◆調査箇所：おおいた動物愛護センター（大分市廻栖野）

【概要】

おおいた動物愛護センターは、平成31年2月に開設し、大分県と大分市が共同で設置、運営する施設。犬猫の飼養管理や譲渡会の開催のほか、飼い主のいない猫に対する不妊・去勢手術や、小中学校の児童生徒を対象にした動物愛護教育等を実施している。当センター開設以降、犬猫の処分頭数や処分率は減少しており、令和4年の処分率は約40%となっている。

今回の調査では、センターの概要について説明を受けるとともに、センター内の動物保護棟の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・委託業者の選定方法について
- ・委託事業の応募状況について

◆調査箇所：奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会（杵築市狩宿）

【概要】

奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会は、県内有数の海水浴・キャンプ場として親しまれている奈多狩宿住吉海岸の松林を整備し、訪れる人たちの憩いの場として提供するため、平成29年に設立。大分県をはじめとした様々な補助事業を活用しながら松林の再生事業や地元住民などとの海岸清掃活動に取り組むとともに、専門家を招いた講演会や小学生を対象としたみどりの野外研修会などの学習活動、整備された松林でのコンサートやマルシェなどの地域活性化にも取り組んでいる。

今回の調査では、会の設立経緯やこれまでの取組について説明を受けるとともに、海岸の松林の整備状況を視察した。

<主な質疑等>

- ・松くい虫の予防対策について
- ・海岸清掃活動実施にあたっての呼びかけや他の活動団体との連携について



◆調査箇所：b & g きつき（杵築市杵築）

【概要】

b & g きつきは、b & g 財団の助成を受けて令和元年4月に開設され、生活困窮世帯や問題を抱える家庭の児童に対して、食事の提供をはじめ、生活習慣の形成や学習支援、課外活動の提供など、児童が将来自立できる力を養うための支援を行っている。令和4年3月末までの延べ利用者数は3,676人で、利用者数は年々増加しており、利用者の8割は貧困家庭となっている。また令和4年度以降は国と県の助成を受け、市の委託事業として運営を行っている。

今回の調査では、施設での支援内容や運営状況及び課題について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・利用児童の交通手段について
- ・令和4年度から運営資金が変更になった背景について
- ・体験活動を通じた子ども達の成長について



◆調査箇所：東部振興局、東部保健所、東部保健所国東保健部

【概要】

東部振興局、東部保健所及び東部保健所国東保健部から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、小規模集落対策、農福連携に関する取組、生活困窮者自立支援事業の状況、令和5年度東部保健所行動計画、新型コロナウイルスの感染状況等）の概要等について調査を行った。

<主な質疑等>

- ・コロナ禍における入院患者の受入体制について
- ・新型コロナウイルスの5類移行に伴う受診可能な病院数の変化について
- ・少子化対策における具体的な目標設定について



◆調査箇所：中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部、消費生活・男女共同参画プラザ、食肉衛生検査所

【概要】

中部振興局、中部保健所、中部保健所由布保健部、消費生活・男女共同参画プラザ及び食肉衛生検査所から、組織及び管内の概要や本委員会が所管する主要な事務（防災対策、特定家畜伝染病対策、交通安全・青少年の健全育成について、令和5年度中部保健所行動計画、新型コロナウイルスの感染状況、犯罪被害者等支援推進事業、消費者教育・啓発活動、女性の活躍推進事業、ふるさと創生NPO活動応援事業、と畜場法に基づく獣畜の検査等）の概要等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・保健所職員の働きやすい職場環境づくりの課題について
- ・消費者トラブルの親世代への啓発活動について
- ・女性活躍推進に取り組む優良企業の表彰基準について

◆調査箇所：大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター（大分市旦野原）

【概要】

大分大学では、近年の大規模な自然災害の発生を踏まえ、平成30年1月に減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）を設置し、ドローンなどの先端技術を活用しながら、「調査研究」「防災教育」「復興デザイン」を三つの柱として、安全安心な社会の構築に取り組んでいる。また、災害情報の集約や災害リスク分析評価などを一元的に行うため、「災害情報活用プラットフォーム（EDISON）」の開発を進め、防災行政・災害対応の高度化を進めている。

今回の調査では、EDISONの仕組みについて説明を受けるとともに、地震シミュレータによる地震動を体験した。



<主な質疑等>

- ・EDISONの防災教育への活用について

◆調査箇所：消防学校（由布市挾間町）

【概要】

消防学校から、組織・職員の配置状況、施設の概況及び本委員会が所管する主要な事務（消防職員、消防団員及びその幹部等に対する教育訓練の種別と体系、令和5年度教育訓練計画、年度別教育訓練受講数の実績、令和5年度消防学校予算額）の概要について説明を受けるとともに、新たに採用された消防職員の初任教育訓練を視察した。



<主な質疑等>

- ・消防団員減少の理由について
- ・教育訓練を受講する団員の負担について

◆調査箇所：こども・女性相談支援センター、こころとからだの相談支援センター

【概要】

こども・女性相談支援センター及びこころとからだの相談支援センターから、組織・職員の配置状況、管内の概況及び本委員会が所管する主要な事務（児童虐待等の相談・支援、里親養育の推進と支援、DVに係る相談対応、障がい者に関する相談、緊急時の心理的援助に関する人材育成と体制整備、自殺対策等）の概要について説明を受けるとともに、中央児童相談所の視察を行った。



<主な質疑等>

- ・ヤングケアラー支援の判断基準について
- ・要支援児童の保護者との協議について